

さくら前線

医師が涙を、流すとき

さくらライフクリニック

医師 近藤 健治

徐々に「ウイズコロナ」に社会は変わっていきま
す。そんななか、この辛く困難なときにおきた
出来事を、どこに残していくことも重要だと
思います。

今月はハロウィン、つまり「ケルト人のお盆」。
以下、別のところで書き残したある患者さん
の「看取り」について転記します。こんな事例も
あったのだと、みなさんの頭の片隅に残してい
ただければ。

訪問診療は別に「看取り」のための医療では
ないが、どのように人生を終えるかをサポー
トするのは、それでも訪問診療の重要な役割
だと思ふ。

この世界に飛び込むきつかけとなり、いまも
週1回勤務しているクリニック。そこで、4年前
から担当していた患者さんが、先日お亡くな
りになった。認知症グループホーム。文字通り
利用者もスタッフもまるで家族のようなその
施設で、その方は約10年過ごしていた。

昨年の夏から、食事量が目に見えて減っていっ
た。改めてご家族を含めてリビンググウィルについて
話し合い、入院せず、施設でできることを行なっ
ていくことになった。

今年に入り、そのときが近いことはいよいよ誰の
目にも明らかになった。ただ、こういったときで
も、このグループホームのスタッフは、部屋のベッド
ですつと寝かせてはおかず、無理のない程度で入居
者が集まるホールの隅の安楽椅子で、スタッフと利
用者の笑い声、テレビの音、洗い物や、食事の用意
の音、そういった「生活の音」のなかで時を過ごさ
せる。たとえ、点滴をしていたとしても。「聴覚は
最後まで残るから、寂しい思いをさせないよう」と
とは、施設長の言葉だ。

「ご家族はずつと面会を差し控えていた。施設は面
会を拒んではおらず、むしろコロナ禍でどのよう
に会ってもらえるかをスタッフ間で何回も話し合い、
提案していたが、「ほかの利用者さんに迷惑をかけ
るから」と自粛していたのだ。しかし、いよいよの
とき、ご家族は、控えめに、「こう要望した。

「死ぬ間際、短い時間だけでも自宅に帰してもら
うことはできませんか？」

次の訪問で、施設長から相談を受けた。「ずつと
我慢してください」ご家族のこの気持ちには応え
てあげたい。正確な予測ができないのはわかってい
るが、それでもなにか指標みたいなものをアドバ
イスしてもらえませんか？」

施設スタッフといういろいろ相談し、経過をチェックし
ながら、「丸1日、尿が確認できないとき」と結論
を出した。みんなの覚悟は、決まった。

ほどなく、患者さんは自宅に帰ることになった。早
朝、ご家族は飛んできたという。すでに自宅には介護
ベッドなどは用意され、訪問看護も決まっていた。

そして、その夜、ご家族はもちろん、そのとき同席で
きた施設スタッフ全員に見送られ、患者さんは旅立っ
た。看取ったのは20年来付き合っている院長だった。

その次の勤務日の朝、院長から呼び出された。

「最期を迎えるのにこういうやり方もあるんだな。そ
の場のみんなが泣いていて…。俺はもらい泣きしちゃっ
たよ」。その場の涙が、悔しいとか悲しいとかではな
く、安堵や達成感から生まれたものであったことを、
僕は願った。

百戦錬磨の脳神経外科医、かつ、熟練の認知症専門
医が感動したその場面は、「ご家族の要望に、医療と介
護が真摯に向き合ったことで作り上げられたものだ。

そうしてこの経験は、その場にいたスタッフの診療や
介護の糧になり、次へとつながっていく。

自宅や施設といった病院外での看取りのみが素晴ら
しいというわけではない。こと人の死について、ガイド
ラインは存在するわけもなく、また逆に「あるべき姿」
などあつてはならない。生き方がそうであるように、
死については千差万別であるべきなのだ。だから、訪
問診療は、終末期の方々だけの医療では決してない。
ただ、必要とされたときは、きちんとその希
望を受け止めることができる役割を果たした
と思ふ。

触れ合うことが難しい時だからこそ、医療が
工夫できることはたくさんあるはずだから。



各拠点からの最新ニュース

錦糸(担当エリア:東京都墨田区、江東区、江戸川区、葛飾区、台東区、中央区の一部)

「夏はうなぎだ」ということで、夏のお弁当会を実施。精神科診療部長はその日、理事長と打ち合わせがあり、なぜかその流れで焼肉弁当を献上することになりました。なので、次回を切望しております。

市川(担当エリア:千葉県市川市、浦安市、船橋市の一部)

自分自身が食べたいから…いやいや、スイーツ好きな職員のため、訪問の合間にケーキだお菓子だをよく買ってきてくれる優しい院長先生のおかげで、今日も勤務頑張っています！

津田沼(担当エリア:千葉県船橋市、習志野市、市川市の一部、八千代市、千葉市の一部)

おかげさまで急拡大している津田沼は、絶賛スタッフ募集中！

Facebook など SNS に「お仕事紹介」が載っていますので、ぜひぜひ！

さがみ(担当エリア:神奈川県相模原市、座間市、大和市、東京都町田市の一部)

果てしなく終わることのないワクチン接種。4回目は550名以上の方に接種いたしました。いよいよ来月からはインフルエンザワクチン！安全かつ確実にお届けします！

新丸子(担当エリア:神奈川県川崎市、横浜市、東京都目黒区、品川区、大田区、世田谷区)

ご好評をいただいている誕生日の花束ギフト。喜んでもらえるとスタッフまで嬉しくなります。

ところで、実は新丸子のコメディカルはみな英語ペラペラ(なはず)です。今後お話してみてくださいね！

最新情報はさくらライフ在宅部 Facebook, Instagram で
毎週更新中！

QRコードはこちら。ぜひ一度ご覧ください！

Facebook



Instagram



発行:医療法人社団さくらライフ

住所:東京都墨田区太平 3-4-7

TEL/FAX:03-3625-5547/03-5819-2258

お問い合わせ・ご相談

お待ちしております。